

極早生温州「肥のあかり」の未結果期の生育特性

未結果期の「肥のあかり」は、地下部に比べ地上部の生育が良く、貯蔵養分である根中のデンプン含有量が「豊福早生」に比べ少ない。そのため、着花が不良になりやすい可能性があるため、芽かきや枝の誘引等の枝梢管理と併せて、根が伸長・増加しやすい土壌管理が必要である。

農業研究センター果樹研究所病虫化学研究室(担当者:上村浩憲)

研究のねらい

極早生温州「肥のあかり」は、「豊福早生」「肥のあけぼの」に比べ熟期が早く生育特性が異なるため、その特性に応じた栽培管理が必要である。そこで、「肥のあかり」未結果樹の解体調査を行い、地上部・地下部の生育特性を明らかにし、生産対策の基礎とする。

研究の成果

1. 「肥のあかり」は、既存の品種に比べT/R率が高く、地下部に比べ地上部の生育が良い。「豊福早生」に比べると、地上部・地下部とも生育量は劣る(図1)。
2. 根量は「豊福早生」で最も多く、次いで「肥のあけぼの」、「肥のあかり」の順で、特に「肥のあかり」の細根量は「豊福早生」の半分である(図2)。
3. 「肥のあかり」の根中デンプン含有率は、大根で高いものの、中根・小根・細根では「豊福早生」に比べ低く、「肥のあけぼの」よりやや高い。また、根の大きさ別では、いずれの品種も中根でデンプン含有率が高い(図3)。
4. 根量から換算した一樹あたり根中デンプン含有量は「豊福早生」を基準とすると「肥のあけぼの」で51%、「肥のあかり」で43%と低い(図4)。
5. 以上のことから、「肥のあかり」は、着花が不良になりやすい可能性があるため、芽かきや枝の誘引等の枝梢管理と併せて、根が伸長・増加しやすい土壌管理が必要である。

普及上の留意点

1. この結果は果樹研究所において、1年生苗木を4月に根箱(30×50×80cm)に植え育成した樹を、翌年2~3月に解体調査(各3樹)したものである。

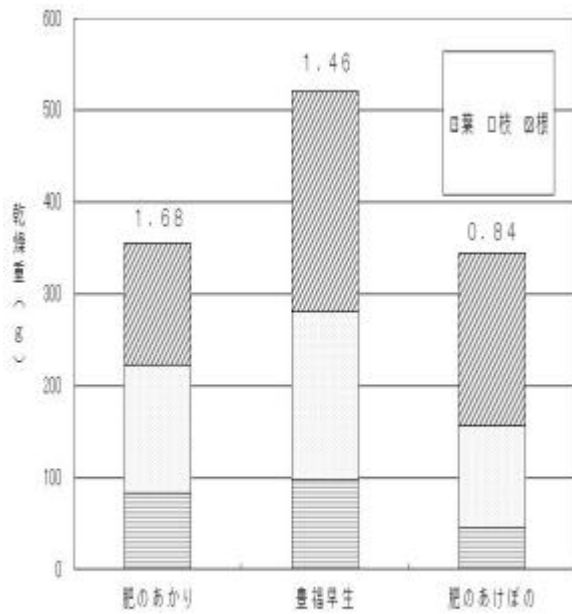


図1 品種別生産量 (表中の数字はT/R率を表す)

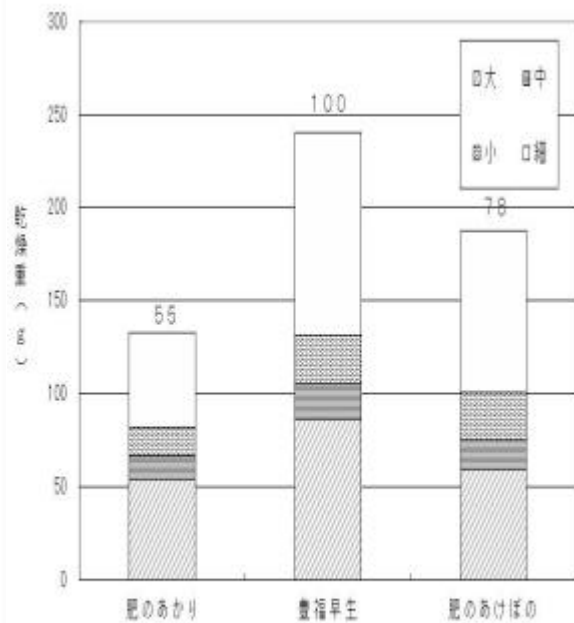


図2 根の大きさ別比較 (表中数字は「豊福早生」を100とした指数)
大根:210mm, 中根:5~10mm, 小根:2~5mm, 細根:<2mm

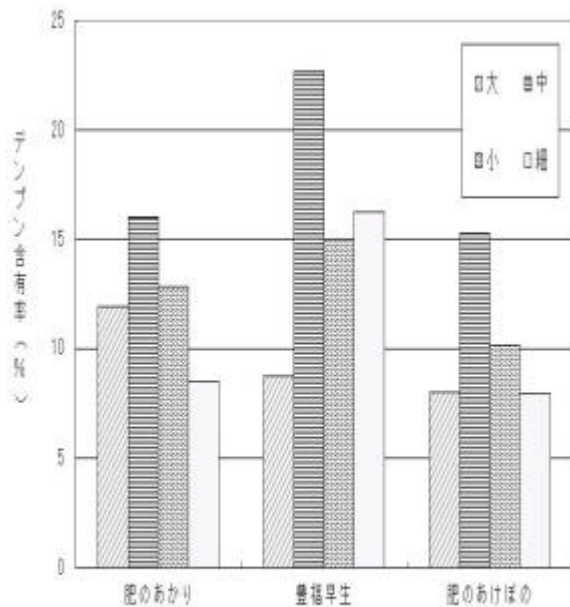


図3 根の大きさ別の根中デンプン含有率
(デンプン含有率は乾物100g中のgを表す)

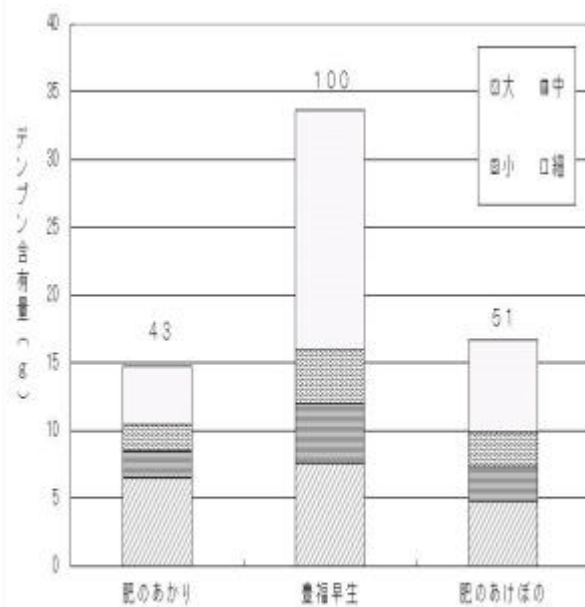


図4 総重量から算出した品種別根中デンプン含有量 (乾燥量)
(表中数字は「豊福早生」を100とした指数)